

7月の星座

野尻抱影

1. てんびん (LIBRA)

入梅というが出梅はない。じじた雨が夏型になり、やがて天地がぱッと目を見開く。暮れて見わたす星々の爽やかな印象はつくづく生き甲斐を感じさせる。

てんびん座は7月6日子午線経過とある。さそり座の頭から西へ数度、3,4等の星の作る小さい4辺形だが、黄道第七位の天秤宮で、 α (2等) が黄道上にある。

バビロンの昔、秋分の太陽がここに位置して昼夜を平分した頃、その象徴として天秤と名づけたが、小さい星宿なので独立性を失い、おとめ座の正義の女神の秤とみたり、さそり座の爪が支える秤ともみて、プトレマイオスはゾゴス(秤)ともケラエ(爪)とも名づけていた。独立したのはユリウス・カイザルがユリウス暦を編制した時で、ウィリギリウスがラテン詩に誦んでいる。

β (3等) は全天にも稀有の濃緑の星で、アマチュアの目試しに楽しい。

2. こぐま (URSA MINOR)

子午線経過7月13日、 α ポーラリス (2等) を尾端とするミニ大ぐまは偶然としては巧み過ぎる。大ぐまを専ら航海の目標に用いていたヘラス人に、前600年ごろ小ぐまの知識を伝えたのが海国フェニキア生れのタレスであることは周知だが、それ以来小ぐまはフォイニケとよばれていた。そして当時の北極星は、キュノースラ(犬の尾)とよばれていたが、この原意は不明である。

最近私は、極そのものはブランクで北極星はそこをはずれていることを最初に発見したのは、前320年ごろマシリア(現マルセイユ)の航海家ピュテアスという人なのを知った。初耳なのでやや得意になって、それでもブリタニカを開いたところ30行以上も解説してあった。北極星にも触れているが、初めて大西洋沿岸をブリテンまで踏査した有名な航海家地理学者。申しわけない。

これとは比較にならないが、日本でネノホシ(北極星)も動くことを初めて確めて航海知識を弘めた“浪速の名船頭”桑名屋徳蔵の事蹟なども、とかく黙殺され勝ちなのは遺憾である。後の幕府の天文方保井春海が12才のころ竹のモノサンで測ってネノホシの動きを発見したという逸話もある。ご存じだろうか。

さて、2等星 β コカブ(北の星)は曾ての北極星として有名である。これと γ (3等) とは北斗に対し北極星を守りながら回っているように見えるので“極のガイド”とよばれるが、日本でも同じ見方でヤライ(遣らい)ボン

という地方が多い。

3. かんむり (CORONA)

子午線経過7月13日。うしかい座の北東に6,7個の星が美しい半円を描く小星座。アラビア名はアルフェッカ(乞食僧の欠け皿)といい、 α (2等) の名ともなっている。日本では、クマボシ、タイコボシ、ヘツツイボシ、オノノカマ、チョウジャ(長者)ノカマなどという。神話ではクレータ島の女王アリアドネーが酒神バッカスから贈られた玉の冠が空に投げられて星となったと伝えられるが、まことにこの星座にふさわしい。

4. りゅう (DRACO)

子午線経過7月18日、まさに天上の巨竜である。見ごろは真夏に入ってからだが、巨大なダイヤ形の頭をすくと立てて東北のヴェーガ(織女)の宝玉をねらっている。 γ エルタニン(竜の頭)の2等から光度順に並び、織女の1等を加えると光度の目だめしに役立つ。竜の長身はこの巨頭から起って尾端まで約10個の星が飛び飛びに大ぐま、小ぐまの間を縫ってカープし、だらりと垂らした尾で終るのだが、尾端から3つ目の4等星、 α トッバーン(竜)は、大ピラミッド建設時代の北極星として今も興味を引く。バイエルがこれに学名を与えた時は恐らく現在の倍以上の光度だったろうと推定されている。

なお竜の頭の γ エルタニンは北緯 52° のグリニッチの“天頂の星”として有名だが、恒星の三角測量を研究した最初の星だったことを記憶すべきだろう。

5. さそり (SCORPIO)

子午線経過7月23日。これから真夏・初秋へかけての空のデラックス、冬のオリオンの雄麗な直線美と対立する豪華な流線美、しかも中心に真紅のアンタレス(漢名 大火)が静心なくざらついている。 α に近い星団M4や2重星 μ_1, μ_2 (スモートリボシ)、銀河に翻転する尾端の λ, ν (山うばに追われるオトドイボシ) など、アマチュアには夏の涼夜の見ものが殆んど無限である。

サソリは八重山群島に小さいのが見られるばかりだが、瀬戸内の漁夫がこの大曲線を釣針に擬してウオツリボシ、タイツリボシと名づけたのは傑作である。そして、ポリネシアの神人マウイが鳥を釣った釣針が空に引っかかったという伝説に通じている。この星座の方言や民間伝承は日本にも少くはないが、アンタレスと左右の星の形をカゴカツギ、サバウリボシ、シオウリボシなどの名も一時代前の農村漁村の生活を今に伝えて奥ゆかしい。

アンタレスが赤い年ほど秋の実りは上出来だと信ぜられて、九州地方にはホーネンボシの名がある。

踊り子に豊年星の赤さよな 抱影

